

MONOBE TIMES

教 育 目 標
○心豊かな人
○情ら学ぶ人
○自働を尊ぶ人
○よく考へて行動する人
○国際社会に貢献する人

〒321-4511 栃木県真岡市高田1838
Tel 0285-75-0008
HP <http://www.moka-tcg.ed.jp/monoijhsc/>
ホームページで学校の様子を紹介しています
ぜひご覧ください



真岡市立物部中学校
学校だより
令和2年度 第3号
令和2年 6月発行

校長室から

6月15日は「県民の日」

校長 市村 政幸
関東地方が6月11日(木)から梅雨入りし、雨に萌ゆる緑が風情を漂わせる季節となりました。今年1月1日からは通常登校がスタートし、学校に生徒たちの元気な声が戻ってきました。全年の生徒がそろうのは約50日ぶりであり、久しぶりの再会を喜び笑顔で語り合う様子から、「当たり前」の日常の大切さに改めて思い至るところです。しかし、新型コロナウイルス感染症の脅威が去ったわけではありません。生徒たちを感染から守るためにも、「3つの密」を徹底的に避ける、「マスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」など、基本的な感染対策を継続する「学校の新しい生活様式」を導入し、健康・安全の下で教育活動が継続できるように最善を尽くしたいと思います。

さて、6月15日(月)は「栃木県民の日」です。栃木県のホームページによると、「県民一人ひとりが、郷土を見直し、理解と関心を深め、県民としての一体感と自治の意識をはぐくみ、より豊かな栃木県を築きあげることを目指す日」として制定されたとのこと。明治6年(1873年)に栃木県と宇都宮県が合併し、おおむね現在と同じ地域の栃木県が成立した日である6月15日を県民の日としました。

「とちぎのシンボル」である「県木：トチノキ(栃の木) / 県獣：カモシカ / 県花：ヤシオツツジ / 県鳥：オオルリ」などは広く知られているところですが、栃木県のホームページに「とちぎの生いたち」が掲載されていたので、その一部を紹介します。

◆旧石器時代から平安時代まで

大和朝廷の勢力が東へ拡大したころの本県は、下毛野国(しもつけぬのくに)と那須国がありました。7世紀後半、統一されて下野国、すなわち栃木県の原型が形作られました。下野国は9郡に分かれ、政治の中心として国府が置かれました。国府付近には、国分寺・国分尼寺・下野薬師寺がつけられて、都から伝えられた華やかな文化が栄えました。

◆鎌倉時代から江戸時代まで

鎌倉幕府が成立すると、小山・宇都宮・足利・那須などの下野の武士も御家人として活躍しました。なかでも小山氏は、下野国の守護を務め、一族は結城・長沼等に分かれて栄えました。また、宇都宮氏の「宇都宮歌壇」は都までその名声をうたわれ、足利学校は「坂東の大学」として宣教師によってヨーロッパにまで隆盛の様子が伝えられました。

徳川家康が幕府を開くようになると、中世以来の豪族は相次いで下野から姿を消し、天領や旗本領に細分化され大名や旗本が支配するようになりました。日光は幕府の聖地として、東照宮をはじめとする華麗な建物が作られ、特別に保護、崇敬されました。

また、二宮尊徳は、近世後期の荒廃した農村のたて直しを図るため、桜町(現在の二宮地区)の旗本領の復興に努め、以後各地で報徳任法と呼ばれる改革事業を実施しました。

◆幕末から近・現代まで

戊辰戦争を経て明治維新を迎えると、政府は中央集権を推し進めるため廃藩置県を断行し、旧来の封建支配の一掃を図りました。さらに県の整理統合が進められ、明治6年(1873年)6月15日に今日の栃木県が成立しました。県庁は、最初栃木町(現在の栃木市)に置かれていましたが、明治17年(1884年)に宇都宮町(現在の宇都宮市)に移されました。

このように、二宮尊徳翁が桜町で行った復興事業については、「とちぎの生いたち」の中にしっかりと記載されており、本県にとっても大きな出来事だったことが分かります。

本校では、6月15日に給食センターが「県民の日献立」として用意してくれた栃木県の郷土料理をおいしくいただきながら、校内放送で流れてくる「県民の歌」に耳を澄まし、トチノキやオオルリなどの本県のシンボルを再確認するなどして、郷土愛を深めることができました。

本校の目指す生徒像は、「ふるさと物部を愛し、心やさしく覇気のある生徒」です。生徒たちが生きるこれからの時代は、グローバル化が一層進展し、国境を越えた様々な交流が当たり前に行われます。そのような時代だからこそ、自分が生まれたふるさとのことをしっかりと知り、そのよさを実感し、自己がよって立つ基盤にしっかりと根を下ろすことが大切だと考えます。本校では、今後も郷土愛の醸成に力を注ぎ、世界で活躍できる人材の育成を図って参ります。

学校再開! まだ遠い「いつもの学校」

6月1日(月)から、待ちに待った学校の再開。物部中学校99名の生徒が、新型コロナウイルス感染の拡大防止対応が始まってから、約3か月ぶりの登校。途中、分散登校等で生徒たちが登校することはあったものの、全校生徒が、一日を通して授業や給食、清掃、放課後の活動に取り組む姿は、今月からの学校再開を待たねばなりません。そして、待望の学校の再開。

生徒が揃うと、学校に元気がわいてきます。職員一同も、コロナ対策の疲れもどこへ、生き生きとした時間が戻ってきたようです。しかしながら、まだまだ「いつもの学校」とはなりません。気を抜くことなく、生徒の安心・安全を第一に、一日でも早く本物の「いつもの学校」にしていきたいと思っています。

さて、最近の学校の様子を紹介します。

分散登校、そして生徒を迎える準備



分散登校時(体力づくり)



分散登校(1年理科)



職員室パージェクション(5/29)



身体計測(6/4)



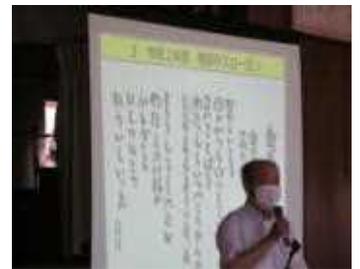
一円融合会から(5/20)

一円融合会の皆様から、消毒剤の提供を受けました。まさに「地域の学校は地域が支える」です。ありがとうございました。

学校が始まりました 6/1~



朝会(6/10)



朝会(校長講話)6/10



避難訓練(竜巻)6/12



避難訓練(竜巻)6/12



朝会(フジカ・デ・イタンス)



朝会(フジカ・デ・イタンス)



避難訓練(火災)6/12



授業(2年理科)6/12

「いつもの学校」。(予断は許されませんが)新型コロナウイルス感染症で、「いつもの学校」は遠いものとなってしまいました。友達との生活・学校の授業・給食・部活動…は、すぐには戻りそうにありませんが、一日一日、一步一步「いつもの学校」に近づいていきたいと思っています。

保護者の方はもとより、地域の方の温かい励ましをこれからもよろしくお願いいたします。

